

# これまでの新人看護師への移行教育の課題に関する文献検討 —コロナ禍での看護基礎教育を受ける卒業生を見据えて—

○宗時千枝美, 菊原美緒 (関西福祉大学), 泊祐子 (関西福祉大学看護学研究科)

## I. はじめに

COVID-19 によりここ数年、臨地実習の経験が少ないまま卒業しなければならない状況が続いている。このような状況においては新人看護師への移行教育を再考する必要性が喫緊の課題と思われる。そこで、新人看護師への移行期における課題を検討し、今後の看護基礎教育での取り組みを考察する。

## II. 方法

医学中央雑誌データベースを用いて、「看護学生」「継続教育」「移行教育」のキーワードで2000年以降を検索し内容の一致した9件の文献を対象とした。文献内容を精読し移行期の課題や課題への対応内容を抽出し整理した。

## III. 結果

これまでの継続教育では教育現場と臨床現場の有機的な連携の強化が求められ (阿曾, 2005)、臨床現場でのリアリティショックが課題となっていた。リアリティショックによる早期離職の予防の取り組みがなされた。

### 1. 新人看護師の特徴に合わせた継続教育

学生と新人看護師の特徴に関する文献は4件であった。学生と3年目以下看護師の学習行動の変化とその促進要因 (岡田ほか, 2021) について、学生時代の基礎的な学習習慣と理解を促進する学習方法の活用など (根津, 2005) があげられていた。

学習者自身が中心となって「状況的に学習」するやり方として、先ず課題に当たり、「どのようにしたら解決できるか」から自分で考える方法 (奥野, 2019) などや、入学時の進路選択類型を基にした学生指導の必要性を示唆していた (上山, 2020)。

さらに、現任教育で新人看護師に求められていることとして、「人間性」「基礎知識と人間性」、看護職として必要なコンピテンシーは「問題解決」「チームワーク」「ネットワーク」「リーダーシップ」など (高島, 2012) が示されていた。

### 2. 実習病院における指導者を育てる取り組み

実習病院と教育機関との連携に関する文献は5件であった。実習病院と教育機関の関係づくりとして、レディネスに合わせた丁寧な指導をすることで、学生は「この病院は私を育ててくれる」と感じ、臨地実習で働く場として選ばれる病院になること (桑葉, 2019) や、実習病院と教育機関の「ずれ」を埋めるための連携、実習指導に関わる知識・スキルを身につけていくことで、具体的には、学生の気づきを教材化し看護に繋げていくことや、学生の学びや気づきを深める発問の方法などの効果的な指導方法の検討 (奥野, 2019) がなされていた。

## IV. 結論

1. 学習者が早期から臨床状況のリアルなイメージ化を図れるような教育方法の工夫の必要性が示唆された。
2. 移行期に関する教育は、基礎教育の教員と実習指導者が連携し、さらに継続教育を担当する病院の教育担当者ともに看護の質を高めあうような関係づくりが課題であった。
3. 基礎教育機関から発信の移行教育に関する研究は明確には見当たらなかった。